

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

第4号
Jul 2009

その夢は、きっと世界を変えていく。



第8回交流会(第2回財団卒業式)



第8回交流会 祝賀会にて

Contents

- | | | | |
|------------|-------------------------|-------------|--------------------------------|
| P.2 | 一語一会「ふるさと」
寄付者名簿 | P.9 | 卒業生からのメッセージ |
| P.3 | 平成20年度下半期活動報告 | P.12 | 竜の子近況報告 |
| P.4 | 東京マラソン参加記・ランナーレポート | P.14 | 寄付者の紹介 |
| P.5 | 東京マラソン参加記・ボランティアレポート | P.15 | 編集後記 |
| P.6 | 第8回交流会レポート
(卒業式・祝賀会) | P.16 | Topics
(平成21年度竜の子奨学生35名が決定) |

財団法人 秋元国際奨学財団

「ふるさと」

志をはたして いつの日にか帰らん

山は青き故郷（ふるさと） 水は清き故郷

これは留学生諸君の間にも知る人の多い唱歌「故郷」の第3節である。1914年に当時の文部省が出版した「尋常小学唱歌（六）」（小学校の音楽の教科書）に初出の歌で、作詞は高野辰之、作曲は岡野貞一といわれる。日本では特に年配の人が好む歌の一つである。

「故郷」という語は人々の心に特別な懐かしい想いを呼び起こす語であった。農業社会を基本とする封建時代、民衆の多くは農民であり、土地に密着して生活していた。土地を離れて移り動くのは農業以外の特別な技能を持つ人か、あるいは事情があって故郷を捨てた胡乱な人間であり、少数派だった。大方の人は先祖代々の地に生まれ育ち一生を過ごし、最後は其処に骨を埋める。それが故郷だったのである。近代に至って工業社会への移行が進むと都会に働きに出る人が多くなったが、まだ人々には父母・祖父母の待つ、帰るべき故郷があり、それは心の拠り所であった。しかし世代が交替するにつれて故郷は無くなり、故郷への想いも希薄となり、従って「故郷」という語も死語になりつつある。とりわけ20世紀末のグローバリゼーションの大波は、古典的な故郷の概念に止めを刺した感がある。

今や人々は国境を越えて流動し、地球上の至る所に住み着く。交通機関の発達で地球は狭くなったし、IT技術の発達で遠く離れていても随時動画像つきの会話ができるから、家族・友人から離れて一人で暮らしていてもそれほど寂しくはない。そのような生活が続けば、また其の中でめでたく新しい家族を持てば、故郷と呼ぶ特定の場所への想いは薄れて行くのであろう。あるいは地球上

到る所に新しい故郷が出来てしまうということでもあろう。時代とともに故郷の概念も変わりつつあるのだ。

さて「山は青き故郷」という歌詞は、単純に考えれば故郷の山は青々と樹木が茂っているという描写である。しかし「故郷の青い山」を、蘇軾（1036～1101、北宋の詩人）の詩「青山骨を埋むべし（死ぬのは故郷でなければならぬとは限らない）」、あるいは釈月性（1817～1858、日本の僧侶・詩人）の詩「人間到る処青山あり（自分を葬るのは故郷に限ることはない）」に由来する「青山」、すなわち自分の骨を埋める所を意味すると解釈すると、この歌は「志を達成したら故郷に帰って残る人生を過ごそう」という願望を示していることになる。それに比べると蘇軾や釈月性は時代を先取りした考えの持ち主であったともいえる。

因みに釈月性の詩の全文は「男児志を立てて郷関を出ず、学もし成らずんば死すとも還らず、骨を埋むる豈唯（あにただ）墳墓の地のみならんや 人間到る処青山あり」。冒頭、男児とあるのは性差別と非難されそうだが、これは自分自身を指すと考えられる。学業が成就しなければ死んでも還らないというのはいささか悲壮であるが、彼の時代には故郷を離れて学ぶのは大変なことで、それ位の覚悟が必要だったのであろう。

グローバリゼーションは時代の趨勢で押し留められないが、私は人間には故郷がある方が良く、ワグナーの楽劇「さまよえるオランダ人」の主人公のように帰る港がないのは淋しいと思う旧世代の人間である。グローバリゼーションと故郷は適度なバランスを保つのが良いと考えるのだが、留学生諸君のご意見はいかがであらうか。



選考委員 ^{ありやま} 有山 ^{まさたか} 正孝

生年：1929年生まれの後期高齢者。

学歴・職歴：1953年東京大学理学部物理学科卒。同大学院、助手、電気通信大学講師・助教授を経て同教授。1994年～2000年同学長。専門：物性理論、物理教育、コンピューター・サイエンス。

現在の活動：財団選考委員。そのほか小・中・高校の理科教育（出前授業）、科学技術分野での日中交流等のボランティア活動。

趣味：クラシック音楽を聴くこと、旅行（特に近年は船旅）。

「一語一会について」

竜の子奨学生にとって、財団関係者からの励ましの言葉は、大変貴重なものです。そして、竜の子奨学生には、その言葉は一生に一度の出会いであると心得て、そこから多くのことを学んでほしいという願いを込めて、このコーナーを「一語一会」と名付けました。

寄付者名簿

泉 毅	様（株式会社マッチング・ナビ 代表取締役）
河 本 貞 子	様（株式会社アルデプロ 一般株主）
小 林 英 一	様（大建ビルテクノ株式会社 代表取締役）
大 山 隆 史	様（ファーストザウェブ株式会社 代表取締役社長）
弦 本 透	様（株式会社日本アド 代表取締役）
加 藤 照 美	様（株式会社メイブルリビングサービス 代表取締役）
未来塾塾生御一同	様（株式会社未来塾ゴルフコンペ チャリティー）
桑 原 宗 典	様（茶道裏千家）
岡 重 訓	様（株式会社アルデプロ住宅販売 取締役部長）
鹿 間 秀 明	様（株式会社アルデプロ 事業二部 次長）
新 海 潤	様（株式会社アルデプロ住宅販売 課長）
田 野 倉 淳	様（株式会社アルデプロ 一般株主）

ご寄付いただいたみなさまへ

このたび、たくさんのご寄付をいただきまして、心より深くお礼申し上げます。

皆様からの暖かいご支援は、私たちにとって大きな励ましと力になります。本当にありがとうございます。皆様のご支援により、これから大きく成長したいと思

い、日々勉学に励んでおります。皆様のご期待に応えるべく、これからも「竜の子奨学生」としての信念と誇りを忘れず、精一杯頑張っていきます。これからも宜しく願いいたします。

（東京外国語大学大学院 余 筱秋）

平成20年度下半期活動報告

●12月23日

平成21年度竜の子奨学生の応募書類を指定大学22大学へ発送

●2月18日

平成21年度竜の子奨学生の応募締めきり

●3月6日

平成21年度竜の子奨学生 選考委員会を開催
(於：株式会社アルデプロ本社)
(選考結果の詳細は最終ページ)



●3月22日

第5回理事会・第4回評議員会を開催（於：京王プラザホテル）
(1) 平成21年度事業計画および収支予算について
(2) 平成21年度基本財産の運用について
(3) 株主権の議決権行使について
(4) 理事・監事の選任について [評議員会のみ]
(5) 定款（寄附行為）の変更について
(6) 最初の評議員の選任方法の承認について
(7) 諸規程（案）について

●3月22日

第8回交流会開催
東京マラソン・10kmコース [5名参加]
東京マラソン・環境ボランティア [27名参加]
第2回財団卒業式・祝賀会
(於：京王プラザホテル)



●3月27日

会報「竜の子奨学生」第2号&第3号編集委員 慰労会



東京マラソン参加記・ランナーレポート

—— 東京が一つになった日！ ——

早春の桜のつぼみが飾る三月の東京の街ではまだ少し寒い風に包まれていましたが、マラソンのランナーたちは胸躍らせて、この激動の一刻を迎えました。今回秋元理事長は4名の竜の子奨学生を率いて、10キロのコースに参加し、奨学生たちと一緒に走りました。ほかの46名の奨学生たちもボランティアとして協力し、ランナーの5人を応援しました。さすが秋元国際奨学財団2008年度交流会のフィナーレを飾る一大イベントです！



いよいよ出発前です。今回ランナーとして走る五人でYA～!!



ストレッチ中のランナーとやさしい笑顔の理事長。

朝9時10分に、いよいよ都庁から東京マラソンスタートです！マラソンを完走するために、走りきる体力と精神力が必要です。これまで体を鍛えてきた成果を発揮しましょう。

今回は第三回目としての2009年の東京マラソンも例年通り参加志望者が増える一方です。今年は日本の全国各地、そして世界のいろいろな国から来た参加者たちは、実は応募した23万人の中の3万人です。なんと7倍ぐらいの高い倍率です！マラソンというのは、なかなか厳しいスポーツですが、自らの精神と身体に与える素晴らしいチャレンジです。本番の前に、忙しい生活を送るみなさんは、日々に練習する時間を捻出し、さまざまなトレーニングをしたと聞きました。

今回の東京マラソンでは沿道の百万を超えた応援者たちの途切れることのない熱い声援に感動したランナーたちは、力走ぶりを見せてくれました。三万人のランナーは一人一人が自らの力で走るのです。きわめて個人的なスポー

ツですが、マラソン大会のために、安全、補給、そして交通規制の維持などいろんな人が一緒に協力し合ったチームワークがあるからこそ成立できた非常に貴重なイベントです。マラソンって個人競技でもありながら、その背後にさまざまな複雑なチームワークが熱心に支えてくれたイベントです。走る方も、見る方も、互いに力を分かち合うすばらしいスポーツですね。本当にありがとう！

汗、勇気、そして熱い精神を溢れるスポーツ。本当に感動しました。今回の東京マラソンの参加を通して実際に走ったランナーたちとボランティアの応援者たちは、マラソンの素晴らしさをみんな深く感じ取れました。この精神を覚えて、これからも皆さんはまたそれぞれでいろいろをチャレンジしましょう！ファイト!!

皆さん、完走おめでとうございました!!



いよいよフィニッシュの地点、日比谷公園です。



さて、みんなで記念写真を撮りましょう！

(担当：平成20年度竜の子奨学生 東京外国語大学大学院 余 筱秋)

東京マラソン参加記・ボランティアレポート

平成21年3月22日8時、東京マラソンのボランティア活動が始まりました。初春の空は少し曇っていましたが、二つのブロックに分けて、集まってきた奨学生達はわくわくした気持ちを隠せませんでした。久しぶりに会った奨学生達は言葉をかわしながら、活動前の準備を始めました。気持ちを込めてメッセージを書いたり、お互いにバッジをつけあい、「皆さん、頑張れ」って声を揃え、ランナー達に声援を送りました。



「完走を目指せ、頑張れ」



「走れ走れ、風を感じ」

私達が担当していた環境ボランティアというのはゴミ清掃部隊でもあり、ランナーの応援団でもあります。

スタート後、私達の前を通り過ぎたランナー達は皆、どの顔も嬉しそうな、楽しそうな笑顔ばかり。前を見て走るランナーもいれば、手を振りながら走っているランナーもいます。プロ顔負けのランナーもいれば、孫悟空などに変装しているコスプレグループもいます。ランナー達の楽しい走り姿をみると、なんとなくボランティアの私達も思わず自然に手が挙がってしまい、そして「がんばれ、がんばれ」と大声も出してしまいました。私達の振る手に気づき、笑顔で大きく振り返ってくれ、「あなた達の応援素晴らしいよ」「ありがとう」と言ってくれるランナーも居ました。本当に嬉しかったです。まったく知らない人ですが、気持の交流って、本当にすごいパワーだなと改めて感じた一瞬でした。

しばらく経つと、ついに理事長達の登場。何万人のラン

ナー達の中に混ざりながらにも関わらず、「秋元国際奨学財団」と印字されている赤い鉢巻はとても目立っていました。なんと皆さん何キロも走ってきたとは思えないくらいさわやかな表情でびっくり！一人一人とハイタッチする時間もなく、ほんの一瞬で私達の目の前から通り過ぎてしまいました。消えていくうしろ姿を眺めながら「かっこいいなあ」って、思いました。

私達もランナーから元気をいただき、応援の後、ゴミ拾いもばっちりやっていきましょう！お菓子の袋や空き缶などがあり、思っていた以上にゴミが落ちていて、驚きました。黙々と1時間ほどゴミ拾いの作業が続き、初めて環境ボランティアになったみんなにとってはお疲れ様よりきれいになった町を見て感激です！そして、ランナー達のお手伝いできて、本当に素晴らしい経験でした。



ゴミ拾いってこんなに楽しいものだったけ？



(担当：平成20年度竜の子奨学生 東京海洋大学大学院 李 博)

第8回交流会レポート

● 第2回財団卒業式 ●

竜の子奨学生29名が財団を卒業する日を迎えました。厳粛な雰囲気の中、卒業生一人一人が花を持って入場し、理事長の式辞の後に卒業記念品が贈られました。そして、在籍者代表による送辞に続き、卒業生代表アズハニさんの答辞では、その感動的なスピーチに多くの参列者が涙を流しました。奨学生・支援者・財団関係者、それぞれの胸に残る感動の卒業式となりました。

式辞 秋元竜弥理事長

本日の卒業式をもって、財団として初めて採用した奨学生の全員を送り出すことができました。交流会を通して皆さんとの思い出が深く、大変寂しい思いをしております。

さて、私には皆さんに持ち帰っていただきたいお話があります。皆さんはこれから苦難や挫折に直面することがあると思います。しかし、人より大きな夢を目指す人はその分、人より大きな苦勞、挫折があると思って今後立ち向ってください。

そのために、「理」と「利」の追求、つまり理念を追求して利益を得て、理念を追求することによって幸せを得てください。決して後者の「利」を先行させずに自分たちの理念を持って幸せになってください。心の豊かさ、身体的豊かさ、経済的豊かさ、この3つをバランスよく保ちながら今後の道を歩んでください。



卒業生にスピーチを贈る秋元理事長

送辞 慶應義塾大学 ^{ソウ} 宋 ^{ショウレン} 寿蓮（中国）

私は、この奨学金の本当の意義は、ここにいる支援者の皆様に支えられた奨学金であること、秋元理事長がいつもおっしゃっている「世界平和の実現」を目標にしていること、そして竜の子奨学生という「仲間」ができるということにあると思います。

竜の子奨学生としての活動は、全国の大学から色々な国のさまざまな専門をもつ留学生が集まった中での「交流」という大変貴重な経験だと思います。卒業生の皆さん、これからも交流会での思い出を忘れずに、将来世界で活躍するそれぞれの竜の子奨学生との絆を深め、大切にしていきたいと思います。



送辞を述べる宋 寿蓮さん

答辞 東京工業大学 アズハニ ビンティ イスマイル（マレーシア）

秋元国際奨学財団と出会ってから2年間。この出会いにより、私たちが日本への留学を決意したときに描いた夢が挫折しかかっていたところへ、改めて希望をもたせていただいたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。それだけでなく、交流会を通じて、新しい仲間ができ、貴重な経験と暖かな思い出がぎゅーっとつまった竜の子奨学生としての2年間でした。その交流会の思い出が今も私たちの胸によみがえってきます。

全て素敵な思い出ですが、私にとって、一番印象に残っているのは富士登山です。お互い助け合って、一人も脱落せず、全員が山頂まで登りつきました。その時、私の重い荷物を山頂まで支えてくれたり、寒さに耐えられない私に上着を貸してくれたり、宗教上の理由で食事に制限のある私にお弁当まで分けてくれた竜の子奨学生の仲間がいて、一人一人の心の暖かさをものすごく感じました。また、下山後に私が体調を崩したときに、秋元理事長が本当に心配してくださって、「大丈夫？」、「頑張ってるね」と励ましていただき、その言葉で私は間もなく元気になりました。こんなに素晴らしい友情と暖かいお心遣いをいただいたことは、とても幸せで、かけがえのない一生の宝物となりました。

そんな私たちを見守ってくださった皆様へ、卒業生を代表致しまして、メッセージを送らせていただきます。

この2年間、いつも暖かく見守ってくださった秋元理事長をはじめ、財団関係者や寄付者の皆様。経済的な面だけでな

く、精神的な面もご指導いただき、私たちが社会でどう生きるべきかということまで教えてくださいました。私たち留学生にとっては、まるで親のような大きな存在です。これから私たちは財団を卒業しますが、第1期竜の子奨学生として、財団の期待に答えられますよう、自分の専門分野で活躍するとともに、世界平和の実現に向かって、頑張りたいです。また、秋元国際奨学財団の暖かさと素晴らしさを、全世界に広く伝えていきたいと思ひます。

私は、間もなくマレーシアに帰国してしまひますが、今日



理事長から卒業記念品を授与されるアズハニさん

はお別れではなく、皆様方といつかきつとまた会える時がくると信じています。帰国しても永遠に竜の子奨学生として、この絆をずっと守っていきます。

終わりに卒業生を代表致しまして、秋元理事長をはじめ、財団関係者や寄付者の皆様に心から感謝申し上げます。今まで本当にお世話になりました。

これからの皆様方のご健康とお幸せを心から祈りまして、答辞と致します。



スピーチを真剣に聞く卒業生

（担当：平成20年度竜の子奨学生 慶應義塾大学 宋 寿蓮）

● 祝 賀 会 ●

寄付者やご来賓の皆様から祝福や励ましのお言葉をいただき、卒業生は楽しいひと時を共有することが出来ました。素敵な生演奏が流れ、落ち着いた雰囲気にもまれ、お料理は美味しかった上に、多くの皆様との気さくな会話で時を忘れて盛り上がりました。祝賀会の最後に4人の卒業生代表がスピーチをし、笑いと涙があつてすごく感動しました。非常に貴重な体験で楽しい思い出でした。

卒業生 京都大学大学院 ユリアハティ リサ （インドネシア）

数年前から父が病気で定期的に病院に通っているのですが、最近病状が悪化し、体調がとても弱っていると連絡を受けたのです。父は「いつ死ぬのかは分からないけど、とにかくリサに近くにいて欲しい」と延々と言っているそうです。私は大変迷っていました。大学に残り、自分の夢を追っていくことはとても大事だと思いますが、父の病状も無視できません。父は、私のことを一生懸命に応援してくれたのに、私はこれまで父のために何もしてあげられませんでした。そこで私は、今回は最後の機会かもしれないので、父の願いを叶えてあげたいと思い、大学を中退して、帰国することを決断しました。最後まで父の面倒を見るつもりです。

私は将来、インドネシアの文部科学省の大臣を目指します。



インドネシアの子供たちにただで勉強できる環境を作りたいです。大臣になったら、秋元国際奨学財団とのコラボレーションということで応援をお願いすることになると思います。

卒業生 一橋大学大学院 朴 敬玉（中国）

交流会では、贈呈式、富士登山、会報の編集、東京マラソンでのボランティア活動などたくさんの経験をする事ができましたが、やはり一番印象に残るのは第6回交流会の富士登山でした。素晴らしいご来光を目にすることができて、一生忘れない思い出ができました。その登山のときのことで、たぶん理事長はお忘れかもしれませんが、足下のおぼつかない私を心配されて、ステッキを貸していただきました。いまでも心が温まる私だけのささやかな思い出です。



卒業生 東京芸術大学大学院 ジョシ サウン（ネパール）

皆さんと初めてあった時にはお互いに全く知らない顔でしたし、皆それぞれのバックグラウンドを持っていたのでお互いに緊張感もありましたが、いつの間にかはお互いに兄弟みたいに感じ、財団も親と同じような存在を感じてしまいました。このようにできた立派な家族には今の場を借りて「さよなら」というのはとても寂しいことですが、実はこれは終わりではなく、これから本番の道に移り、それぞれ皆さん一人一人が国際関係を深めて世界を立派な家族につなぐために重要な役割を演じることを信じています。



卒業生 京都大学大学院 温 允（中国）

日本で経済的に厳しい生活と戦ってきて、一番困っているときに財団の奨学金をいただきました。この一年間は財団の支援により安心して生活できました。生活が安定しすぎたせいか、専門知識がだいぶ増えたと同時に、体重もだいぶふえました。そして一年間の交流会を通して、大変楽しい時間をすごしました。「こんな楽しい財団に自分が奨学生として採用されるためには、就職した夫がいたらまずい」という理由で、今年結婚するつもりだった彼女は、私との結婚を延期することになったのです。



私は富士通の無線通信関係の研究所に就職しました。将来、財団で学んだことと自分の専門知識をいかして、中国の国有会社の独占を打破り、中国をはじめ世界中の貧しい人でも利用できる通信プロバイダ会社を作りたいと思います。これは、相当に難しい目標だと覚悟しているので、会社の名前はハードバンクでもいいかなと思います。



祝辞 理事 小川進吾様
（財団法人産業医学研究財団理事長）
竜の子奨学生の皆さん、将来を見据えて、夢を持ち、いつも明るく楽しくそういう気持ちで、これからの人生を歩んでいただきたいと思います。



祝辞と乾杯のご発声
評議員 山下泰裕様
（認定NPO法人柔道教育ソリタリティー 理事長）
今日二つのことを感じました。一つは秋元国際奨学財団の理念或いは理事長の思いが深く奨学生の心に伝わっていることです。もう一つは理事長と奨学生間の非常に強い絆があることです。このすばらしい財団をこれからもずっとずっと続けていただきたいと思います。



祝辞 来賓 ヴィバウ・カント・ウパデアー工様
（インドセンター代表）
私もかつて留学生として、一つ日本で学んだことは、いくら大変になっても、解決する方法は絶対にあるということです。



卒業生から秋元理事長への千羽鶴
私たち卒業生の心はずっと秋元理事長及び竜の子奨学生たちと一緒にです。



祝辞 寄付者代表 小林英一様
（大建ビルテクノ株式会社代表取締役）
自分の専門分野を追求していきながら、竜の子の理念のことと世界が一つといったようなキャッチフレーズをいつも考えていながら頑張っていたと思います。



卒業生から廣田常務理事へ感謝の花束
日頃の生活に関する多くの有意義なご意見、ご助言をいただきまして、心より感謝いたします。



挨拶とお祝いの言葉
東京外国語大学大学院 余 筱秋（台湾）
財団を卒業する竜の子奨学生と、引き続き学業を続けていく竜の子奨学生は、これからも、さまざまな問題と課題に向き合っていくと思いますが、「竜の子奨学生」としての信念と誇りを忘れず、財団で学んだことを生かしてそれぞれの場で活躍できるように頑張っていきたいと思っています。



閉会の言葉 松田正一様
（早稲田大学大学院教授）
「人育て」ということがどれだけ大事なのか、今日改めて感じました。

（担当：平成20年度竜の子奨学生 電気通信大学大学院 万 欣）

卒業生からのメッセージ

平成19年度竜の子奨学生
バク ソンウク
朴 性昱
(韓国・ソウル市)
北海道大学大学院
工学研究科
修士課程卒業



私は2月末から韓国に帰国し、「サムスン電機」という会社に就職しました。3週間のグループ研修と5週間の電機研修を無事に終え、先週5月6日から配属先で仕事を習っているところです。私は「生産技術センター」の設備自動化グループに配属されました。主に、工場の設備（機械）を設計したり、開発する仕事をします。大学での専攻（機械工学）の知識を活用できそうでしたと思います。しかし、同じチームで20代は私しかなく、みなさん経歴の長いベテランさんばかりで少し不安ですが、これから仕事についていけるよう頑張って勉強したいと思います。

平成19年度竜の子奨学生
ドン ティエン ドゥック
(ベトナム・ハタイ省)
東京工業大学大学院
イノベーションマネジメント研究科
修士課程卒業



私は4月1日にサイバーエージェント株式会社に入社してから一ヶ月になりました。ビジネスマナーと仕事の流れの把握だけですが本当に廣田さんが教えていただいたことはとても役に立ちました。予定として6月末にはベトナムのハノイで勤務することになります。日本にいる時間は残りわずかですがたくさんのビジネスマナーや日本人のビジネスの考え方を学びたいです。今後は一生懸命仕事に打ち込み、「豊か」になりたいと思います。そして、日本とベトナムの架け橋になり、両国の関係をますます発展できるように頑張りたいと思っています。

平成19年度竜の子奨学生
サワン・ジョシ
(ネパール・ラリトプル郡)
東京芸術大学大学院
音楽研究科
博士後期課程3年



現在僕は博士課程3年として在籍しております。今年の10月に博士論文を提出しなければならない状況ですので今必死に論文を書いているところです。資料はまだ不足しているので6月のはじめから一ヶ月半ほどネパールに調査しに行く予定です。忙しい中でもたまにいいイベントがあれば音楽の演奏活動も続けています。国費留学生になりましたので経済的に一応安心して竜の子奨学生になった時と同じように勉強がスムーズになっていると思います。

平成19年度竜の子奨学生
シャリハル
(中国・新疆ウイグル自治区)
電気通信大学大学院
情報システム学研究科
博士後期課程9月修了予定



4月1日入社式が終わり二日目から横浜のある研修センタで一ヶ月の研修を受けに行きました。約600人の新入社員さんたちが一気に集まりグループとチーム単位で工場、研究所、製作所、科学館などにも行ってさまざまな分野での研修も受けました。その間、二日間の合宿研修も行われ600人を60チームに分けアドベンチャーラリーを行われ、さまざまな困難と課題を乗り越えながら私たちのチームが準優勝を取りました。もっとも印象に残ったのはこのアドベンチャーラリーを通じて身につけたチームワーク、考え抜く力、前に踏み出す力でした。竜の子の皆さん、奨学生としての使命感を感じ、早めに社会に貢献するために頑張りました。

平成19年度竜の子奨学生
ブ ショウヨク
武 霄翌
(中国・北京市)
日本大学
商学部4年



財団を卒業してから約2ヶ月経ちましたが、竜の子の皆さん、お元気にお過ごしでしょうか。

新年度が始まり、私も竜の子の皆さんと同様に自分の夢に向かって、ハイスピードで充実した毎日を過ごしていますが、最近、時間があってホットする一時によく、秋元理事長が卒業式の講演会の中で述べた言葉——「人生の目的、人生の目標とは何だろうか、それは無明の闇を知恵の太陽で破ることです」を思い出しながら、人間としての生き方を考えたりしています。

私は秋元理事長と出会ったことにより、以前とは違う自分を見つけることができました。皆さんも秋元理事長から何か自分にとって大切なものを見つけてみてはいかがでしょうか。

平成19年度竜の子奨学生
チェッタナシャイ カニター
(タイ・バンコク)

早稲田大学大学院
国際情報通信研究科
修士課程卒業



奨学金の卒業式後、奨学生の皆と会っておらず寂しく思っています。皆は元気に暮らしているのでしょうか。私の周囲は大きく変わりました。卒業して新しい場所へ引越し、いろんな人と出会いました。今、会社でタイのプロジェクトを担当しています。タイへ頻繁に出張し、新しい工場を立ち上げるため頑張っています。つい最近、工場が開設できて、社長から現地スタッフまで関係者でお祝いしたところです。これから工場が無事に稼動するまで、頑張っていこうと思っています。

平成19年度竜の子奨学生
ヨウ ラン
余 嵐
(中国・上海市)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋マネジメン
ト学部卒業



みなさん、お久しぶりです！4月1日から本社導入教育を受けています。すっかり社会人気分になっています。今は京都のパナソニック工場でガラスレンズのスポット検査を毎日堅実にやっています。一か月後にレンズ検査のプロになるつもりですよ。研修中はたくさんの優秀な同期と出会えて、毎日刺激を受けています。もっともっとたくさんの勉強をして素敵な社会人になろうと思っています。会社に入って、いろいろな研修を受けて、とても忙しいけど、毎日とても充実しています。みなさんも頑張ってくださいね。

平成20年度竜の子奨学生
オン イン
温 允
(中国・浙江省)

京都大学大学院
情報学研究科
修士課程卒業



私は4月から富士通（株）の社員になり、二ヶ月にわたる新人研修を受けています。今は大阪にて営業実習中で、豚インフルエンザに脅かされながら毎日新しいことを体験し、楽しい日々を送っています。竜の子奨学生としての一年間は本当に短いです。しかし、皆さんと一緒に味わった楽しみと感動は一生も忘れられない。少し残念なのは、短い時間で全員と交流しきれないことです。皆さんはぜひ自分なりの目標を持って交流会に参加し、短い奨学生生活を楽しく、かつ有意義に過ごしていきましょう。

平成20年度竜の子奨学生
リュウ ジュンフク
劉 潤福
(中国・大連市)

東京芸術大学大学院
美術研究科
博士後期課程修了



最近、“学生時代には・・・”をよく言う。単の言葉使いだと思うが、急に卒業したんだと気がする。
“まだ学生ですか？”
“はい、そうです。”
このような会話する場面は、どんな美しい景色であろう。

平成20年度竜の子奨学生
サイ ガクトウ
崔 学東
(中国・遼寧省)

九州大学大学院
理学府
博士後期課程修了



今、私は大学の研究所で研究員として働いています。研究内容は輸送システムとしての高機能性材料です。マイクロカプセル化は周囲の環境から物質を保護する技術です。スマートおよび刺激応答性カプセル材料はカプセル化された物質を保護するために開発されているもので、その物質をターゲットまで正確に運搬し、放出することができます。そのメカニズムや放出時間は要求通りに作ることが出来ます。竜の子奨学生の皆さん、夢に向かって一緒に頑張しましょう。

平成20年度竜の子奨学生
バク ケイギョク
朴 敬玉
(中国・吉林省)
一橋大学大学院
社会学研究科
博士後期課程4年



一年間、竜の子奨学生として、贈呈式、富士登山、会報の編集、東京マラソンでのボランティア活動などたくさんの経験をすることができました。私にとっては一生の宝物です。とくに、卒業式後、理事長が自ら一人一人の卒業生に手紙を渡し、みなさんを励ましてくださるとき、思わず涙が出てきました。家族の温かさを感じたからです。私は現在、関東学院大学で非常勤講師を担当しながら、研究に励んでおります。みなさんとのご縁はこれからもずっと大切にしていきたいと考えております。

(担当：平成19年度 竜の子奨学生 東京大学 劉 知凡、平成20年度 竜の子奨学生 日本大学大学院 楊 志剛)

結婚のご報告

皆さんお元気ですか。竜の子奨学生1期生の劉彦平です。

この度5月20日、会社の同僚である佐谷哲と結婚いたしました。

彼は、富士ゼロックスの同期入社で、研修初日に隣同士になって知り合いました。

彼は大阪人で、大雑把なところも多いですが、誠実で、素直な性格で、話しやすい人でした。

私はよく日中友好関係が良くなることを望んでいましたが、まさか自分で国際結婚までするとは思っていませんでした（笑）。

もちろん、文化の差異はいろいろあります。

夫はよく私に怒られて、すねています。

（これは文化の差異と言うより、単なる夫婦間の口喧嘩？ ^-^）

でもこれから良く話し合いお互いを理解して、夫婦間の良好な関係を築くように努力していこうと思っています。

皆さん、これからもぜひ見守ってくださいね。



一緒に明るい未来を築いていこうね



永遠に相思相愛でね

最後に、皆さんも国際恋愛や国際結婚にチャレンジしてみませんか？（笑）

勿論、まずは学業に励んでくださいね、陰ながら応援しております。

平成19年度竜の子奨学生

リュウ ゲンペー
劉 彦平 (中国 山東省)

一橋大学大学院
国際・公共政策教育部
修士課程卒業

竜の子近況報告

「盛岡と花巻にて」



2008年11月2日、日本語学会会場の岩手県公会堂にて（看板右側が本人）

ワン フィジエ
王 慧杰（中国・河北省）

東海大学大学院
文学研究科
博士後期課程 2年

昨年の秋に、日本語学会二〇〇八年度秋季大会に参加するため、岩手県の盛岡に行ったついでに、せっかくですので、近くの花巻——詩人・童話作家の宮沢賢治の生れ故郷にも行ってきました。

郊外の胡四王山の上に建てられた宮沢賢治記念館では、彼の生涯が分かる古い写真や資料の他に、『注文の多い料理店』をはじめとする沢山の童話作品の手稿、そしてかの有名な「雨ニモマケズ」手帳の全頁が展示されています。彼の歩んだ道と独特な文学の世界がそこに凝縮されており、それを肌で感じることができました。また、入口に掛かっている自筆絵画「日輪と山」の他に、彼が採集した岩石標本、数多くの楽譜を通して、彼の科学や芸術など様々な分野における高き才能を窺うこともできました。

ただの三日間でしたが、専門知識を高めることだけでなく、宮沢賢治についての理解も深められた、とても意義のある良い旅となりました。これからも、このような旅を、できる限り、続けていきたいと思います。

「やりがいのあるボランティア活動」



2008年12月23日、帰国するスロベニアの学生を見送った仙台駅前にて（右側から2人目が本人）

イ ジョン
李 知映（韓国・ソウル市）

東北福祉大学
総合福祉学部 3年

大学1年生のときは日本にきたばかりだったので、余裕がなく、実際多くのボランティア活動に参加することはできなかったです。それで、2年生になってからはもっと積極的に参加してみようと思って、さまざまなボランティア活動に参加してみました。そのうち、特に記憶に残った活動について紹介します。毎年スロベニアから、東北福祉大学に約1ヶ月間交換留学生としてきて日本の文化や歴史などを勉強するプログラムがあります。その学生たちが日本で生活をする中で困ったときに助けてあげるためのボランティア活動があって参加してみました。私も同じ留学生の立場なので、理解できる部分も多く、小さなことでも、私が誰かを助けることができるという立場になるということは本当にうれしいことだなと感じました。そして、スロベニアという国についても詳しく知ることになり、短い時間だったけれども、いい思い出を作ることができてすごくよかったと思いました。

「新しい環境・新しい仲間・新しい気持ち」



2009年4月、河口湖でのオリエンテーション合宿にて（後列左から3番目が本人）

オウ ウヒ
王 宇飛（中国・遼寧省）

東京大学
薬学部3年

今年4月私は東京大学教養学部の理科二類から卒業し、かねてからあこがれている薬学部に進学することができました。薬学は当初日本へ留学してくる最大の目標であったゆえ、その嬉しさはとても言葉にできません。しかし、嬉しく思いながら最初少し不安も覚えました——また新環境におかれ、留学生の私はうまく溶け込めるのでしょうか。こういう不安を持ちつつ薬学部に入りましたが、半日もかからなくその不安は解消しました。お互いの進学動機や将来の抱負など真面目な話題から「過去の面白エピソード」などの四方山話までいろいろ話し合っているうちにこの新しい出会いを楽しむようになりました。それからの合宿や勉強会などを通じて同級の仲間と更に親睦が深まり、今はもうばっちり和新環境に慣れてきました。そして、今の私はこのゆったりとした気持ちで学業が重いことで有名となった薬学部で自分の夢に向かって勉学に励んでいこうと思っています。



2008年5月9日、中国四川省樂山市の凌雲山東坡楼にて

マ ヨウ
馬 耀 (中国・大連市)

筑波大学大学院
人文社会科学部
博士一貫制 5年

「文学研究の現実」

4月からは五年生になりました。とうとう最高学年になっちゃったなあと思った時、ふっと研究室の名簿が目に残りました。数えてみたら、同級生二人を除いて、下に7人がいて、上には8人もいます。しかし、まだ中級生だからと言ってほっとしてはいけません。既定年限内で学位を取れないのが文学をやっている人間の現実です。修学年限を少しでも短縮できるように、毎年確実に研究成果を出さなければなりません。幸い、私は3月に論文1本を仕上げることができ、全国学会誌での掲載が決まりました。これは財団のご支援があったからこそこの成績だと思います。これからも感謝の気持ちを忘れずに一歩ずつではあっても確実に前へ進みたいと思います。



2008年8月、沖縄県糸満市でのボートレースにて (ボートの右端が本人)

チョウドリー イツテアク アミン
(バングラデシュ・ガジプル市)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋マネジメント学部 4年生

「沖縄の「アジア青年の家」に参加して」

みなさん、沖縄に行ったことがありますか？ 私は沖縄で、3週間の間、アジアの青少年と日本の高校生計75人が環境をテーマに体験学習する「アジア青年の家」にチューターとして参加しました。文化や言語の違う人々の中でコミュニケーションをとることを手伝い、徹夜でイベントを計画しました。その結果、皆と仲良くなり、高校生たちは期待以上の成長を見せてくれました。

さて、私は今年9月卒業する予定なので、交流会で皆さんと会うチャンスは、あと1～2回ぐらいかもしれません。寂しくなりますよ。9月から半年間はバングラデシュの家族と過ごし、来年の春に京都のオムロンに入社します。バングラデシュあるいは京都に来るチャンスがあれば、ぜひ私と連絡してくださいね。



2008年10月、京都宣教師教会にて家族で礼拝に参加したとき (後列右側が本人)

チヨウ チュウ
張 冲 (中国・浙江省)

立命館大学大学院
政策科学研究科
博士後期課程1年

「真の愛ができるように」

20年度は僕の人生が大きく変化した年度でした。毎日がアルバイトで精一杯の生活から、家族の時間が出来て、平日に研究に専念して、週末に家族三人と一緒に教会を通うことが出来るようになりました。それから、勉強すればするほど、自分の知識が不足であると感じます。特に、30歳の誕生日をきっかけとして、人生を見直したところ、新たな目標を目指して、頑張りたいと決意しました。それは真の愛(Agape)ができるように努力したいです。そのために、休暇の時間を利用して、神学の勉強を始めました。そして、キリストに対する信仰も深めました。今後、自分の目標を達成するにはもちろん努力を尽くしますが、他人の人生の成功と幸せに役に立つことを目指して、自分のできることを尽くしたいです。

(担当：平成20年度竜の子奨学生 日本大学大学院 楊 志剛)

財団は、様々な立場の方々から、ご支援をいただいておりますが、特に寄付者の皆様からのご支援は、財団にとって心強い力となっています。そこで、普段なかなか交流の機会が少ない寄付者の皆様に、竜の子奨学生に知ってもらうために、新たに企画を設けました。今号では、久保玲士様と泉毅様のお二人に、お話を伺いました。



くぼ れいし
久保 玲士 様

株式会社アルデプロ 取締役副社長

鹿児島県出身（なので、お酒は大好きです）。趣味はドライブ

質問 財団にご寄付いただくことになったきっかけを教えてください

秋元理事長に財団設立の趣旨を伺いまして、大変感動しました。そこで、自分に何ができるかということを考えてのですが、その結果自分にできることは寄付をすることだという結論を出したことがきっかけです。

質問 交流会にご参加いただいた感想をお聞かせ下さい

自分がピュアになれるですね（笑）。竜の子奨学生をみて、今の日本では見られない「苦学生」という言葉を思い出しました。実は私も学生時代は「苦学生」だったので、そういう意味では、奨学生の皆さんと同じ体験をしているのです。

質問 特に印象に残っている竜の子奨学生はいますか？ またその理由もお聞かせ下さい

奨学生の皆さん全員が印象深いのですが、筑波大学の蔡碧月さんと京都大学の曹洋さんです。お二人とも考え方がしっかりしており、特に環境問題に真剣に取り組み、母国の抱えている深刻な状況に対して、まじめに捉えていることに感心しました。

質問 竜の子奨学生にどのようなことを期待したいですか

国際交流は、国と国との関係ではなく、人と人との繋がりに尽きるということを理解していただきたいと思います。

また、竜の子奨学生の皆さんが、欧米の大学ではなく、日本の大学を選んで留学してくれたことを大変嬉しく思っています。せっかく来日できたわけですから、日本を誤解しないでほしい。そして、草の根の日本を見てほしいと思います。

アジアは成長します。これから成長していく国家を担っていく一人として、日本の良い面・悪い面をしっかりとみたと上で、その中から、取り入れるべきことを取捨選択してほしい。おそらく母国の方にも良い面・悪い面があるでしょうから、それとうまく調和させて、発展につなげてほしいものです。

質問 最後に、竜の子奨学生へメッセージをひとこと

これからも元気に頑張ってください。そしてまずは自分自身が成長するということを最優先してください。その結果として、母国が発展するということです。



いずみ たけし
泉 毅 様

株式会社マッチング・ナビ 代表取締役

埼玉県川口市出身。趣味はマリンスポーツ、釣り、スポーツ観戦。会社設立前にはプロゴルファーを夢見て、生活苦に悩まされながら5年間ゴルフ研修生をしておりました。今は16歳の高校生一男の父です。

質問 財団にご寄付いただくことになったきっかけを教えてください

秋元理事長の経営する(株)アルデプロと当社の取引が始まった当時、理事長は私にとって雲の上の人であり、お話できる機会もありませんでした。そして数年後、人づてに財団設立のお話を伺い、秋元理事長のスケールの大きさに感動しました。そしてある日、会食のお誘いを受けたのです。とにかく嬉しかったです。こちらは緊張してばかりで、何とか「日頃から大変お世話になっています」とご挨拶したのですが、秋元理事長は「何をおっしゃいますか。こちらこそ大変お世話になっています。今後は共に大きくなり、社会貢献できるよう頑張りましょう。」とおっしゃって下さいました。取引業者である私に対して決して見下すことなく丁寧に接していただいた理事長に、私はまたまた惚れ込んでしまいました。少しでも秋元理事長のような方に近づきたいと思い、少額ながら毎月寄付をさせていただいております。

質問 交流会にご参加いただいた感想をお聞かせ下さい

交流会の行事内容は、竜の子奨学生の皆さんが普段体験できないことばかりだと思いますが、実は私も未体験のことばかりで、一緒に楽しませていただいております（笑）。

質問 特に印象に残っている竜の子奨学生はいますか？ またその理由もお聞かせ下さい

竜の子奨学生ほぼ全員が印象に残っています。慣れない環境や習慣の中でハイレベルな勉強に取り組んでいることは本当に偉いと思います。また、われわれ日本人でも人前で正しい日本語が話せなくて苦労しているというのに、竜の子奨学生の上手なスピーチを聞くと大変感動します。

質問 竜の子奨学生にどのようなことを期待したいですか

財団は竜の子奨学生の皆さんを支援してあげるという気持ちで運営しているのではないと思います。大切なことは人間関係であるということをお伝えしたいのだと思います。

秋元理事長のそのような気持ちを理解し、いつか竜の子奨学生の皆さんが、それぞれの専門分野で活躍して、財団に直接恩返しできるようになってほしいと思います。

質問 最後に、竜の子奨学生へメッセージをひとこと

もっと日本を好きになって下さい。



編集後記

- 委員長 東京外国語大学大学院 余 筱秋 (ヨ ショウキウ)
- 竜の子奨学生として二年目になりました。いつも財団の方々からいろいろなご支援をいただいておりますが、会報第四号の編集委員の一員として少し手伝うことができて、とても嬉しく思います。記事の執筆という形で過去半年間の竜の子奨学生活動について書いたものが活字になって私にとって良い刺激で貴重な経験でした。そして編集会議を通して委員の皆さんとずっと深く知り合えました。今回編集委員長として特に何も役に立たなかったかもしれませんが、廣田さんと編集委員の皆さんからのご協力のおかげで編集作業はスムーズになりました。皆さん、ご協力どうもありがとうございました。
-

- 副委員長 東京海洋大学大学院 李 博 (リ ハウ)
- 今回の編集に当たって、第8回の交流会（東京マラソン）のレポートを担当させていただきました。初めての編集ですので、責任を感じるとともに不安も抱えていました。しかし、実際に記事を書いているうちに、大会で体験した感動そして喜びをもう一度味わえたことにより、楽しく書くことができました。内容はまだ至らないところがあると思いますが、この記事を通じて、その気持ちを皆さんと分かち合うことができたら嬉しく思います。一緒に編集に携わったメンバーの皆さん、投稿してくれた奨学生の皆さん、皆のお陰で、無事に会報の編集を終えることができました。本当にありがとうございます！今回の会報編集は私にとって貴重な経験でした。
-



- 委員 日本大学大学院 楊 志剛 (ヨウ シゴウ)
- 「竜の子奨学生」会報第4号の編集を無事終えることができ、記事文章や写真を寄せて頂いた奨学生に感謝致します。編集にあたり、皆さんと一緒に意見などを交流してとても楽しかったです。私は主に「近況報告」を担当しました。卒業したまたは卒業していない奨学生とメールでやり取りしました。皆さんの文章を読んで、奨学金は学業を励ましただけではなく、人生で貴重な経験としていろいろな場面に影響を与えていると思います。これから、皆さんと一緒に「竜の子奨学生」の絆と友情を大事にしていきたいと思っています。また、廣田常務理事と奨学生たちメールで連絡の大変さを感じました。最後、今回の会報編集は、私にとって本当に良い経験でした。
-

- 委員 電気通信大学大学院 万 欣 (マン キン)
- 私は「祝賀会レポート」を担当させていただきました。よりいいものを仕上げるため、祝賀会のビデオを何回も見ました。感動的な場面が数えられないほどたくさんありました。竜の子奨学生として幸せだと強く感じています。レポートを書いている際、いつも思うことがあります。それは祝賀会の内容をどのようにうまく伝えることができるのか！ということ。これを念頭に置いて、熱い情熱でレポートを一生懸命作りましたので、皆さんよろしくお祈りします。
- また、毎回編集会でメンバーの皆さんと交流したり、協力し合ったりして、チームワークの素晴らしさを感じ、貴重な仲間を得ることができました。
- いい体験で楽しい思い出いっぱいでした。
-

- 委員 東京大学 劉 知凡 (リウ チボン)
- 編集委員の皆様、お疲れ様です。
- 今回は自分にとって初めての編集経験です。みんなと一緒に議論したり、文章を書いたり、ほかの奨学生達に協力を要請したり、とても面白くて、非常にいい勉強になりました。
- 今回の編集について、一番感触深いところはやはりみんなとのメールのやりとりでした。以前は単に受ける側として廣田さんからのメールを返信し続けて来たが、今回はメールを送る側としてやってみると、廣田さんの日頃の苦勞がよくわかりました。なぜ毎回メールに【返信必要】をつける理由もよくわかりました（笑）。
- 皆さん、締め切りを守ってね。
-

- 委員 慶應義塾大学 宋 寿蓮 (ソウ ショウレン)
- 有意義な時間——
- 廣田さんをはじめ、編集委員の皆さん、どうもお疲れ様でした。
- 初めての雑誌編集。自分にとって新しいことで本当に楽しみなやらせていただきました。何よりも編集会議でのみんなの意見がとても活発です！編集者全員の意見でより良い誌面になっていくことが実感できました。
- また、何回かの編集会議で大事にしたいお友達ができました。それだけではなく、出版社の方と一緒にミーティングをすることで、自分により刺激を与えてくれます。おかげで私たちは日本の会社を見学することもできました（笑）
- そして、竜の子奨学生の皆さん、自分の将来にも役立つ大変貴重な経験になると思いますので、これから是非積極的に参加してみてくださいね！一言で「最高に楽しかったです！色々な人に出会えて刺激を受けて、それは一生の財産です。」
-



平成21年度（第3期）竜の子奨学生 35名が決定

平成21年3月6日に、第3回選考委員会が開催され、全国22大学（本年度より、新たに名古屋大学が指定大学となりました）の42名の応募者の中から、中国・韓国・インドネシア・モンゴルのアジア4カ国の32名の留学生が、竜の子奨学生として選出されました。さらに、第1期竜の子奨学生のうち3名について、学業成績の向上・交流会への参加状況・財団への貢献度などが特に顕著であることが評価されて、奨学金支給期間を1年間延長することが承認され、下表の通り、合計で35名の留学生が、第3期竜の子奨学生として選出されました。

この結果、当財団に在籍する留学生は、昨年度までの奨学生とあわせると、アジア6カ国の50名となりました。

平成21年度 財団法人秋元国際奨学財団「竜の子奨学生」の大学別採用学生数一覧

大学名	採用学生数	採用学生数の内訳								
		課程別			国・地域別				男女別	
		学部	修士	博士	中国	韓国	インドネシア	モンゴル	男	女
北海道大学	1		1		1					1
群馬大学	1		1				1		1	
筑波大学	1			1		1				1
亜細亜大学	1		1		1				1	
慶應義塾大学	2	1	1		1	1			2	
電気通信大学	1	1			1				1	
東海大学	1	1					1		1	
東京大学	3			3	2	1			1	2
東京外国語大学	2	1	1			2			1	1
東京海洋大学	1		1		1				1	
東京芸術大学	2			2	1	1				2
東京工業大学	1		1			1				1
東京電機大学	1			1	1				1	
日本大学	2		2		2					2
一橋大学	2		2		1	1				2
明治大学	2	1	1		2				1	1
立教大学	1		1			1				1
名古屋大学	2		1	1	2					2
京都大学	3		2	1	2	1				3
立命館大学	1			1	1					1
九州大学	2		2		2				1	1
立命館アジア太平洋大学	2	2				1		1	1	1
合 計	35	7	18	10	21	11	2	1	13	22

（注）博士前期は「修士」欄に、博士後期および一貫制博士は「博士」欄に含む



Akimoto Tatsunoko
International Scholarship Foundation

財団法人 秋元国際奨学財団
<http://www.tatsunoko.jp>